

様式3

群馬大学生体調節研究所内分泌・代謝学共同研究拠点共同研究報告書

令和 8 年 3 月 20 日

群馬大学生体調節研究所長 殿

所属機関名 国立循環器病研究センター
職 名 特任部長
研究代表者 山本正道

下記のとおり令和7年度の共同研究成果を報告します。

記

(課題番号: 25019)

1. 共同研究課題名	生活習慣病由来心不全の新規治療薬の開発			
2. 共同研究目的	生活習慣病由来の心不全モデルマウスで心収縮時のエネルギー効率が低下しているモデルに対して、エネルギー効率を上昇させる薬剤を探索し、その効果を検討することで、新たな心不全治療薬を開発する。			
3. 共同研究期間	令和7年4月1日 ~ 令和8年3月31日			
4. 共同研究組織				
氏 名	所属等	職名等	役 割 分 担	
(研究代表者) 山本正道	国立循環器病研究センター —	特任部長	研究の総括とマウス生体内 ATP 動態解析	
(分担研究者) 濱田日月	国立循環器病研究センター —	非常勤研究員	単離心筋細胞に係る実験・解析	
5. 群馬大学生体調節研究所 の共同研究担当教員	分野名	ゲノム科学リソース分野	氏 名	畑田 出穂

次の6, 7, 8の項目は、枠を自由に変更できます(横幅は変更不可)。6, 7, 8の項目全体では2頁に収めてください。

6. 共同研究計画

心筋細胞のエネルギー効率が低下する心疾患の一つとして、拡張型心筋症の可能性がある。そこで、様々な心不全モデルを作出し、その心筋細胞を単離してきてエネルギー効率を計測する。多くの遺伝子改変マウスでは胚性致死が生じるため、畑田出穂グループが作出を得意とするコンディショナル欠損を共同開発している。

7. 共同研究の成果

本共同研究課題において、生体調節研究所との共同研究が貢献した内容についても具体的に記載してください。

現在、私たちが新たに見出した Oxicar コンディショナル欠損マウスを作製して頂いた。凍結精子輸送を行うため、オスマウスが得られることを待っている。今後、凍結精子輸送後に AVID マウスと交配させ、その表現型を詳細に解析していく。

8. 共同研究成果に関連する学会発表・研究論文発表状況及び本研究所担当教員との共同研究に関する情報交換

(本研究所の担当教員の氏名の記載のある論文、又はこの共同研究に基づくとの記載のある論文等をできる限り記載してください。なお、論文の場合は、PDFファイルを以下の研究所庶務係のメールアドレスまで報告書と併せてお送りください。) 研究所庶務係: kk-msomu4@ml.gunma-u.ac.jp

① 本研究所の担当教員の氏名の記載のある論文
特になし

② この共同研究に基づくとの記載のある論文
特になし

③ 学会発表を行った主なもの3件以内(学会名、開催日、演題)
特になし

④ 本研究所担当教員と申請代表者との共同研究に関する情報交換の状況(主なやり取りを箇条書き)
・コンディショナル欠損マウス作製のための遺伝子情報や LoxP 挿入領域情報交換
・gRNA デザイン情報
・コンディショナル欠損マウス作製でき、オスマウスが得られるように交配中である情報